

あばっさ



vol. 23

つうう語む地の精華

*次号の発行は2019年1月を予定しております。

*ご住所等ご変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです。

特定非営利活動法人
熱帯森林保護団体
Rainforest Foundation Japan
〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20
TEL : 03-5481-1912 FAX : 03-5481-1913
xingu@rainforestjp.com www.rainforestjp.com

32回目のアマゾン視察を無事終え帰国しました。30年近く支援対象地域の時の流れを見てきましたが、この地に居住するシングーインディオの人々は見事なほどに外部のブラジル社会とつきあっています。最初に訪れた時は男女共全裸で狩猟採集に近い暮らしをしていましたが、さすがに現在は服も着用、若者がスマホやPCを使いこなす姿もみかけます。しかし、脈々と続くインディオとしての血は確固たるものとして残っています。偶然ですが今回カラパロ族の集落で「女の祭り」に遭遇しましたが、何と4日間、女性たちは寝ずに歌い踊り続けていました。裸にボディペインティングをほどこし、日中は50℃以上になり、そして夜間は10℃近くの中、単調な歌と踊りは続きます。夜中の女たちの歌声はまるで読経のような、宇宙と交信をしているよう私は感じました。インディオの営みは未だ確実には貨幣が流通していないので私たちと違いとてもシンプルです。太陽と共に起き、畑で芋を掘り、魚や森の獲物を取り全て自分たちでさばき食し、そして日が沈むと寝ます。世の中が複雑になって、便利で物や情報で溢れる私たちの世界は人としての何か大切なものを失っていくような気がします。唐突ですがインディオの社会から学んだことは、足ることを知って、この星で生きる「覚悟」を持つということです。

来年5月で当団体は30周年目になり、私は覚悟して生きることを忘れずに、支援活動に精進して参ります。
(南 研子)



Photo by: Satomi Shimogo & Naomi Matsuda

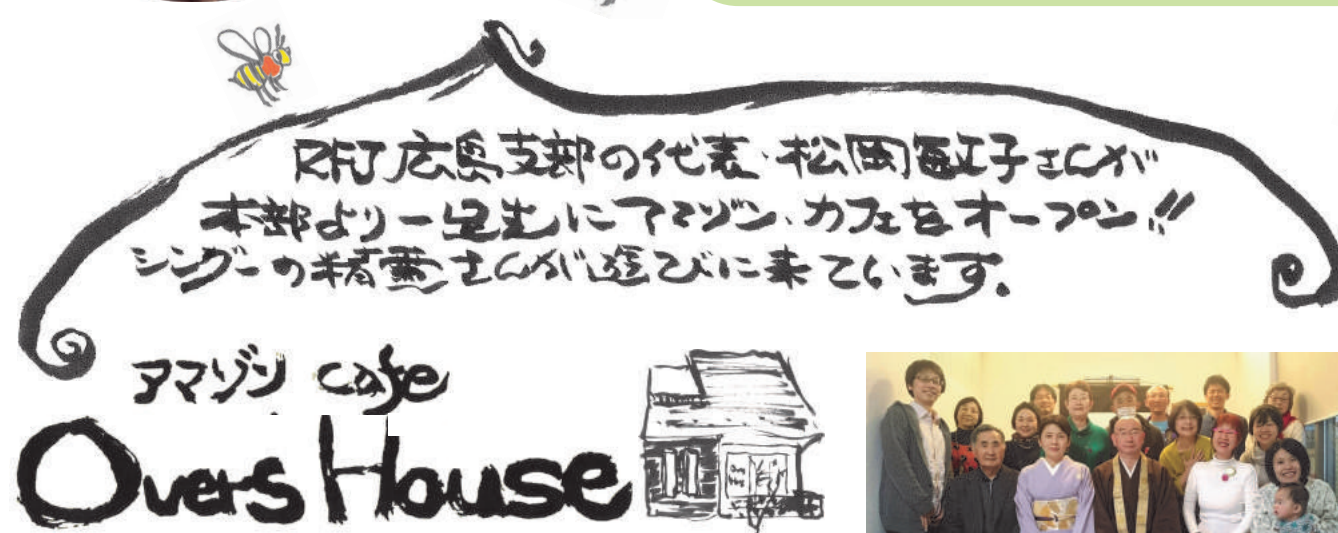
ジャングルのエネルギーが、いっぱいまた蜂蜜



今年は例年よりたくさん持ちかえりました！
たくさんのご注文お待ちしております！
ぜひお試しください！
売り切れ次第、販売を終了致します

お名前 ご住所 電話番号 ご注文数
をご明記の上、
こちらまでお申込みください！

メール : xingu@rainforestjp.com
FAX : 03-5481-1913



この度、縁あり宮島を望む地にアマゾンCaféをオープンすることができました。

Overs Houseの名前の由来はミュージカル映画オズの魔法使いの「Over the Rainbow」の歌詞から・・・どこか虹の向こうの空高く 夢の叶う場所がある だから虹を超えて行ってみる・・・そんな素敵な歌詞だったように思います。

ラオーニは、人類最後の希望は何かと聞かれ「それは人の絆だ！」と言っていました。

聞いたその時はちょっと意外だったけれど、そんなさやかにみえることこそ大事にしていかなければならないのではないかと今は思います。

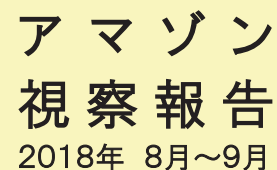
Overs Houseオープンにあたり多くの皆さまのご協力を得たことを深く感謝いたします。

宮島に来られた際は是非お立ち寄りください。アマゾンからのいい風吹いています。
(松岡 敏子)

〒739-0424 広島県廿日市市市前空5-6-31
(JR前空駅北口徒歩1分)
TEL090-5705-8558(松岡)
通常営業日:木・金・土 11:00~16:00(変更有)
駐車場5台有

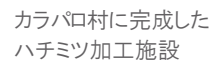
イブレリコーヒーなど、
ブラジル産 有機・無農薬コーヒーを飲みながら
ホッとすると時をお楽しみください

オープニングを記念して、
Overs Houseにてアマゾン報告会を行いました。



下郷さとみ（フリージャーナリスト/兼業コーディネーター）

■ 昨年のマチプ民族に続いて、カラパロ民族の村にもハチミツ加工作業施設が完成しました！



カラパロの村では3人の養蜂士が当事業を担っています。ほがらかで働き者の3人は順調に生産量を伸ばしており、これまでもハチミツを村の訪問客に販売して、売り上げをコミュニティに必要な物資の購入などに役立ててきました。今回、念願の施設が完成したことで、養蜂士をはじめ村人たちは「これで本格的に生産に取り組める」「ハチミツを通して村のことを知ってもらえるのがうれしい」と喜んでいました。そして、「花を咲かせる豊かな森が守られているからこそハチミツが採れる。ハチミツは森を守るインディオのシンボルだ。おいしいハチミツを通して、そのことを都会の人たちに伝えたい」と語っていました。



■周囲の大規模農業開発がもたらす高温化・乾燥化によって森林火災が多発するアマゾン

焼畑の延焼を食い止める消防団員

■有用植物の苗木を植え森林を再生し、木の実を売って自立経済を作り出す試みの開始

植樹祭には
ラオーニ(右)とメガロン(中)も参加

「ありがとう、アマゾン」

松田 ナオミ（ムウ・アトランティス・ファクトリー）

深いジャングルには沢山の精霊さんが宿り、インジオはその偉大さも恐ろしさもよく知っていて、自分達の役目も知っているのだろう。伝統を受け継ぎ自然と共存する人々。地球も社会も悲しい状況だけれど、あの緑の大地と共に暮らすインジオ達が居るんだと思うと勇気が湧いてくる。彼らが居る限り地球は大丈夫と思います。その為にも森を守らなければと強く思います。

